

平成 22 年秋における外来魚生息状況調査結果

上垣 雅史・上野 世司・酒井 明久

1. 研究目的

平成 22 年秋の琵琶湖における外来魚（ブルーギル、オオクチバス当歳魚）の生息状況を定点捕獲調査から把握し、外来魚駆除事業の効果を推定する。

2. 研究方法

一定基準で設けた琵琶湖沿岸帯（水深 7m 以浅）の 109 定点（南湖 43 定点、北湖 66 定点）において捕獲調査を行った。捕獲は小型ビームトロール網（ビーム長 4m）を小型動力船で曳網することによって行った。曳網時間は北湖 5 分間、南湖 3 分間とし、曳網速度は 0.27m/sec を基準とした。調査に使用した試験漁具（4m ビームトロール網）が同一の平成 19 年度以降の結果を用いて、ブルーギルおよびオオクチバス当歳魚について曳網 1ha あたりの捕獲尾数と重量を求め、推移を示した。

3. 研究結果

ブルーギルは、捕獲魚の体長から 50mm 未満を当歳魚、50mm 以上 80mm 未満を 1 歳魚、80mm 以上を 2 歳以上魚とした。図 1 に南湖と北湖別の曳網 1ha あたりの捕獲尾数の推移を示す。平成 22 年秋におけるブルーギルは、北湖では当歳魚の捕獲尾数が、前年の 7.2 倍と多いことから増加傾向を示し、平成 20 年と同程度であった。一方、南湖では 1 歳魚が、前年比 7.5% と著しく少なく、減少傾向となった。平成 22 年秋の南湖ブルーギルの体長組成は前年と大きく異なり、ほとんどが当歳魚であった。（図 2）

オオクチバスは、体長が 120mm 以下の個体を当歳魚とし、それらの曳網 1ha あたりの捕獲尾数を図 3 に示す。前年と比較すると、南湖の減少が著しかった。

4. 研究成果

例年同様の調査を行い、外来魚の生息状況（当歳魚の発生状況）を迅速に把握することで外来魚駆除事業を効果的に展開する。

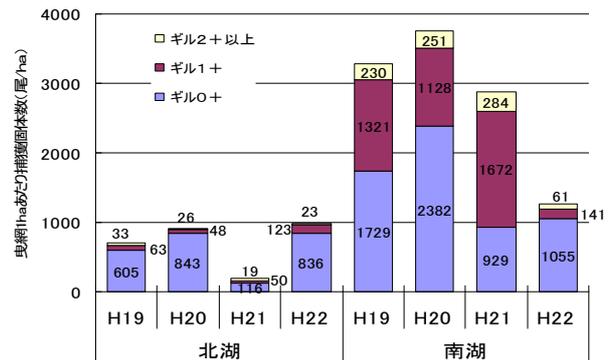


図 1. 南湖、北湖別のブルーギル曳網 1ha あたり捕獲尾数平均値の推移。

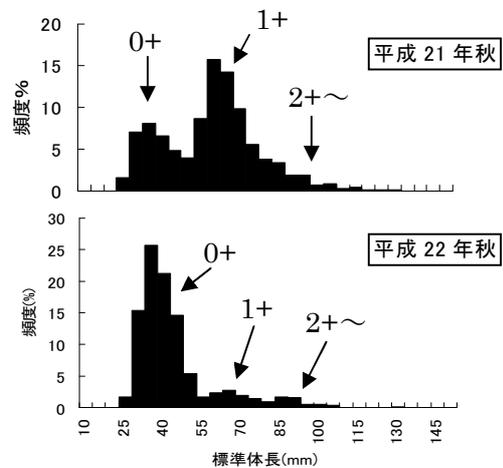


図 2. 南湖のブルーギル体長組成。

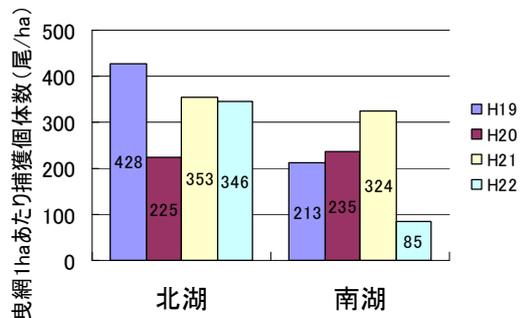


図 3. オオクチバス当歳魚の曳網 1ha あたり捕獲尾数の推移。